

《ワーキンググループには本紙は示さず、ワークシートの作成を依頼する予定》

《 Step1:各事業の現況整理 》

ワーキンググループにおいて、「次期共生ビジョン方針検討ワークシート」の「**事業実行の視点**（項目⑤、⑥）」と「**人材育成等の視点**（項目⑦）」から、定住自立圏の連携事業の取組状況を整理し、次期共生ビジョンの方針の検討材料とする。

※「次期共生ビジョン方針検討ワークシート」は、各市町の担当所属長から決裁を受けたものを提出する。

事業実行の視点

- ・「次期共生ビジョン方針検討ワークシート」の⑤「実現可能性」及び⑥「広域連携のメリット」の2軸により検証
- ・ワーキンググループで各項目について4～1のいずれかを選択
(1、2の場合はその理由を付してもらう。)

・シート項目⑤「実現可能性」 評価4段階

- 4…実現可能であり、関係者との調整も進んでいる(or 既に実現している)
- 3…実現可能性はあるが、関係者との調整等が今後必要となる
- 2…実現可能性が低く、当初目的の達成は困難
- 1…実現可能性は考えられず、当初目的の達成は不可能

・シート項目⑥「広域連携のメリット」 評価4段階

- 4…市町単独で行うより連携した方が全体的な効果が期待できる(or 既に一部で連携が行われている。)
- 3…連携による効果は期待できるが、その範囲は一部の地域や年齢の者に限定される
- 2…連携による効果が小さく、現行と大差がない
- 1…連携による効果が期待できず、市町単独で行った方が効果がある

人材育成の視点

- ・シート項目⑦では、定住自立圏の連携事業について、「人材育成(情報交換)の場としての有用性」の視点から検証
- ・各市町の担当課ごとに4～1のいずれかを(1、2の場合は理由を付してもらう。)

・振返りシート項目⑦「人材育成(情報交換)の場としての有用性」 評価4段階

- 4…2市1町間で情報交換や認識の共有を行ったり、協議を行う必要のあるテーマが存在する(定住自立圏の場合は人材育成に有効となる)
- 3…2市1町間で情報交換や認識の共有を行ったり、協議を行う必要のあるテーマは存在しないものの、2市1町担当間の交流の場は必要だと感じている(定住自立圏の場合は今後の人材育成に有効となる可能性がある)
- 2…定住自立圏の他に職員交流の場があり、そちらで十分情報交換等ができていない(定住自立圏の場合は人材育成にあまり有効とならない)
- 1…担当分野について2市1町間の交流、情報交換の場は必要ない(定住自立圏の場合は人材育成に有効とならない)

《 Step2: 各事業の今後の方針について検討 》

Step1の事業実行の視点の結果を以下の図に当てはめ、今後の方針を検討する。

		項目⑤ 実現可能性			
項目⑥ 広域連携のメリット		4	3	2	1
	4	A	B	E	J
	3	C	D	G	L
	2	F	H	I	N
	1	K	M	O	P

《上の図による方針案》

A,B,C,D … 継続

「定住自立圏の」事業として、事業の継続もしくは実現に向けた検討を進める。

E,G,J … 一部見直しのうえ継続

現在検討されている事業内容を再点検し、一部修正の上、事業の実現に向けた検討を進める。

- ・定住自立圏の新規案として再提案
- ・定住自立圏以外の広域連携の枠で検討 なども考えられる。

上記以外 … 見直し

「定住自立圏として」の検討を一旦見直す。

⇒ただし、人材育成の視点の状況や、連絡調整会議における事務局意見、共生ビジョン懇談会における委員意見を踏まえた上で、次年度のワーキンググループ会議において継続の方針を最終的に判断する。